

所見

分析

(1) 形態

- ・ 幹が中心に位置しており、枝、葉、実は、ほぼ左右対称に描かれている。
- ・ 葉が、樹冠の輪郭線の代わりをしていて、閉じた樹冠が見られる。
- ・ 地面には、ラインが引かれている。

(2) 木の部分

- ・ 幹と樹冠部の大きさは、釣り合いがとれていて、内面の安定を保つために、自分をコントロールしたり、妥協することができる。
- ・ 幹と樹冠部の結合部には、葉が覆われているが、恥ずかしい情緒反応が現れた場合、それを隠しやすい傾向がある。
- ・ 枝は、上下に向かって伸びており、元が閉じた枝から、さらに細い枝が上下に出ている、枝先は葉で覆われている。エネルギーの流れは自由に行き来しているが、環境から流入してくる影響に対しては、緩衝作用を働かせることができる。
- ・ 樹冠全体を覆うほどの、多くの葉が描かれている。内向的で、好奇心旺盛であり、環境から多くのものを取り入れる。しかし、自分自身の内的構造に同化しようと試みるため、他者からの影響を受けることは少ない。
- ・ 根と地面のラインが描かれているが、環境をうまく活用し、現実的な見通しをもつことができる。

(3) 描線

- ・ 太くて濃いストロークが連続しており、健全なストロークである。

(4) 空間図式

- ・ 用紙の中央に描かれている。過去や未来、周囲の人間関係に対して、バランスを保つことができる。

まとめ

全体的には、健全な自我発達を示している。周囲の環境に対して開かれた姿勢をもってしている。しかし、すべてを受け入れるのではなく、自分自身が必要であると判断した事柄に対しては積極的に取り入れ、先のことを考えて、行動に移す特徴がある。

(平成 26 年 9 月 16 日実施)